

郷土資料館だより

Vol. 20, No.1

1998. 12. 25



七 五 三

11月15日は七五三のお参りで三嶋大社は大賑わいの一日。着飾った男の子や女の子、そして両親や祖父母の付添が、手には千歳飴やカメラ・ビデオを提げ、恰好の撮影場所を求めて広い境内を行きつ戻りつしていました。人生には誕生から死に至るまでの間さまざまな人生儀礼がありますが、七五三はその一つで、男女児の成長過程を祝う儀礼です。現在では、祝うのは3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児が一般的になっているようですが、こうした決まりは江戸時代以降のことで、都会地での習俗だと言われます。

中世には、公家の間では2歳または3歳で「袴着」ということが行われ、武家の間では、3歳の時に「髪置き」といって、綿を頭にいただきせて白髪になぞらえ、白い苧でくるる儀式が行われていました。また、祝いの月日も決まっていなかったようです。

中世以来の都会的な習俗とは別に、地方には地方独特な子供の成長を祝う儀礼が伝承されて

います。

沼津市の多比では「襟祝い」と称し、近所の人々が祝い着の襟に祝儀を入れて祝ってくれたといいます。祝い着はヒャクヒトエの時と同じように母親のサトから送られた着物でした。お宮参りの後は、近所や親戚を呼んでオフルマイを催して祝います。

たいていの場合は長男・長女に限って盛大に祝う習わしとなっているようですが、南伊豆のようにハツコ(第一子)とシマイコ(末っ子)を特に祝うという例も見られます。ハツコの3歳の祝いをハツイワイ、シマイコの7歳の祝いをシマイワイと呼んでいます。子供にとっては、7歳の祝いは、幼時から子供になる祝いであると考えられます。この祝いを経て、ムラの子供の資格をようやく得られたことになるのでしょう。

また、親にとっては、ここまで無事に育て上げてきたことを祝う儀式でもあり、子育て第一段階終了の日とも言えるでしょう。

企画展報告

「きたうえ村」

会 期 平成10年3月21日～5月10日
 入館者数 15,699人
 展示点数 資料 107点
 写真パネル 57点

三島市の北部^{きたうえ}は、明治の市町村制実施から約50年間「北上村」という農村でした。昭和10年（1935）に三島町と合併し、村はなくなり当時を知る人はわずかとなっています。

今回の企画展調査では、こうした方々のご協力により、村の記録を残す機会となりました。又、各神社の神宝や村絵図・講の資料、戦前の写真など数々の貴重な資料のご提供をいただき、展示や図録で紹介することができました。これらの資料を通してのどかな農村であった北上村と、集落・モヨリの祭りや講を通しての素朴な信仰となごやかなつきあいを再現できました。ご協力下さった皆様に心からお礼申し上げます。

来館者の中でも、多くの北上地域出身者が子や孫を連れて見え、現在すっかり住宅地となってしまった昔の水田風景・集落写真を見入り、講や神社関係資料などを興味深く眺めていました。

展示した資料の中から、北上地域特有の資料を数点紹介します。



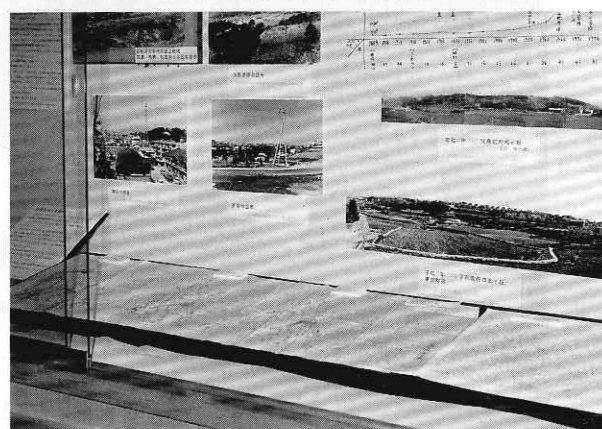
沢地 駒形神社の鰐口（ワニグチ）

これには「慶安三」年（1651）に沢地村氏子達が奉納したことがタガネ彫りで刻まれています。駒形神社の創立年ははっきりしませんが、この地は源頼朝の時代から長く箱根権現領であったので、その祭神（駒形さん）を勧請して沢地の氏神としたと伝えられます。古い棟札では寛永5年（1634）が残り、天明5年（1785）の棟札は箱根山法印59世が記し、大工は元箱根の大場藤右衛門です。箱根権現（明治以降は箱根神社）と沢地のつながりは深く、現在でも、年末に沢地の農民達は米を集め箱根神社に奉納しています。

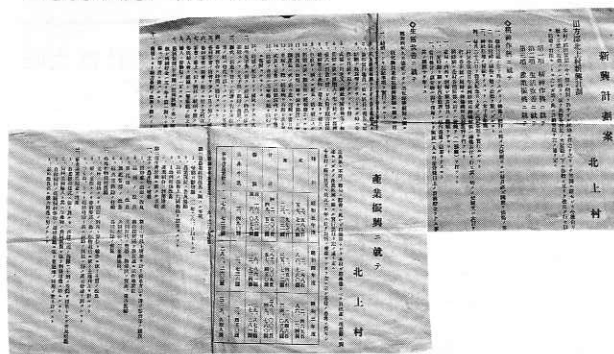
（沢地・駒形神社 蔵）



▲北上の昔をしのばせる写真の展示



▲展示風景（北上の変貌）



『北上村 新興計画案』（昭和7年・1932・頃）

米作りと養蚕・畑作（主にカンショの生産）にいそしむ専業農家が大半を占めた北上村は、昭和恐慌の影響を受け財政的に逼迫しました。このため財政再建策として、生活改善・精神高揚の他産業振興を説き、農産物の増産を推めています。

慶弔儀礼の簡素化、節煙・節酒、婦人労働服の一定化の他、農業簿記・取引の共同化や、菜種栽培、「一戸に二頭の養豚、二十羽の養鶏」が奨励されています。

こうした努力も効果なく、ついに三島町との合併にふみ切ることとなりました。

（勝俣巖氏 蔵）



「和優講」の掛軸と大黒天像

明治13年(1880)徳倉、沢地、壱町田の有力者20人により構成された講。初めは積みたてたお金で、旅行をしたり、株を購入していました。講仲間には、北上村の歴代の村長や村役が顔をそろえています。

現在も「和優講」は9軒で続けられており、持ちまわりで毎年秋に親睦会を催しています。講当番の家では「永優和」の掛軸を掛け、木彫りの大黒天を飾ります。この掛軸は昭和9年、当時の北上村村長・柳省吾が書したもので、三島町との合併を翌年に控え、和優講と北上地域が永く平和で穏やかであるようお願いを込めたものと思われます。(和優講 蔵)

「神山講」 掛軸

神山講は戦国時代に沢地に移住してきたといわれる神山一族(7家)により、毎年正月に各家持ち回りで催されます。7家は江戸時代に分家しましたが、この講を通して親戚づきあいが続いています。

神山一族は駒形神社を奉じ、江戸時代の一時期には沢地から下土狩(長泉町)にかけて、広く勢力を誇ったといわれています。

この書は、大正14年(1925)10月方廣寺管長間宮英宗禅師によるもの。

「神如在、不動如山」

(神おわしますが如く、山動かざるが如し)
(神山講 蔵)



沢地 横井戸を掘る道具

沢地地域では、毎夜、沢地の守り神である駒形さん(馬)が一軒一軒見回り、村の安全を守っていると言い伝えられています。この駒形さんが落ちるので、沢地では縦井戸が禁じられ横井戸が掘られました。

この横井戸を掘る道具の先端はらせん状の鉄です。掘るにつれ、木の柄に竹を何本も継ぎ、大人10人がかりで、数十メートル掘ったといいます。

(下里次郎氏 蔵)



企画展報告 「ふり返る20世紀」

会 期 平成10年7月19日～8月30日
入館者数 13,404人

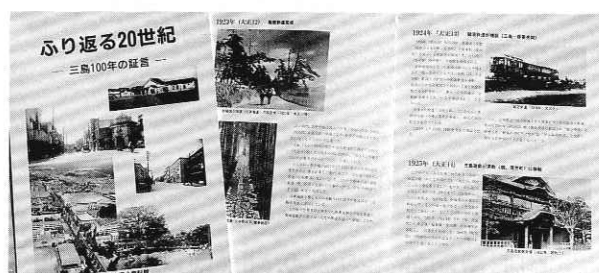
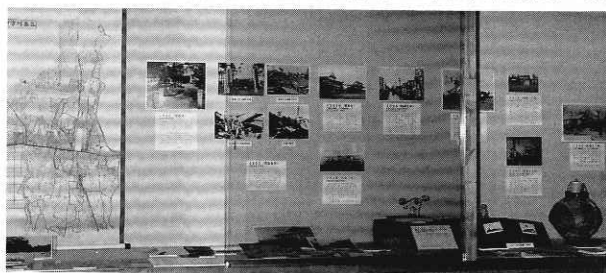
残り少なくなった20世紀を振り返り、1年1項目に焦点をあて、資料と写真により、変貌をとげた三島のさまざまな側面を紹介しました。明治・大正ののどかな町・村から、連隊の駐屯する軍都となり、昭和に入ると北伊豆震災・太平洋戦争の激動の時代を通り、戦後の高度経済成長下、新幹線三島駅開業に象

展示点数 写真パネル164点
資料87点

徴される繁栄を享受しますが、その陰りがみえる今日まで、わずか100年の間に起こった地方小都市の変遷の激しさが浮き彫りとなりました。

●企画展図録(56ページ)販売中 1冊 500円

明治大正から戦後にわたる貴重な写真を多数掲載しております。三島の20世紀の歩みをたどるのに最良の一冊です。



報告 ふるさと講座

「三島市の文化財めぐり」

今年のふるさと講座は、市内に数多くある文化財を実際に見て回ろうという、屋外講座でした。文化財の名前だけではどこかで聞いたことがあるが実際にはどんなものか知らない、という声はよく聞かれます。今回は、そうしたイライラ、モヤモヤを吹き飛ばすことが出来たでしょうか。また、初めての企画の「三島の巨木・名木を訪ねて」では、樹齢数百年の大木に巡り会えたり、感動の一日を過ごすことが出来たことと思います。約1ヶ月間に4回の講座でしたが、天候にも恵まれ、無事終了することが出来ました。

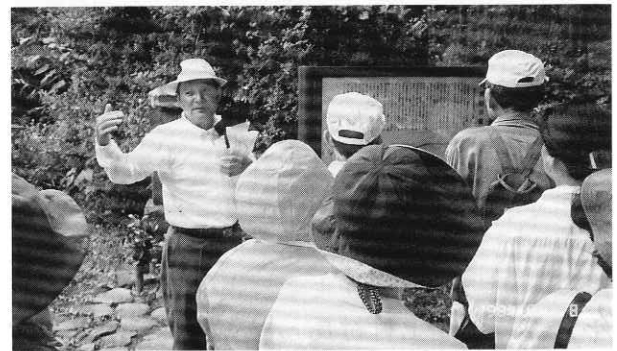
受講者 (応募者多数のため抽選)

人数	36人
男女比	
男性	19人(53%)
女性	17人(47%)
出席率	
1日目	34人(94%)
2日目	35人(97%)
3日目	33人(92%)
4日目	34人(97%)

- 右内神社のハリギリ (但し根部分のみ)
- 神明宮社の社叢 (市)
- 駒形諏訪神社のスギ (市)



御園神明宮社のクスノキ前で



山中新田徳利の墓横のスギ

10月7日(水)

「三島の巨木・名木を訪ねて」

講師・高島 勝氏 (文化財保護審議委員)

コースと樹木

楽寿園 (別名いこいの松のアカマツ) ~ 御園 (神明宮社のクスノキ・マキ) ~ 梅名 (右内神社のムクロジ) ~ 大場 (大場神社のマキ、ケヤキ) ~ 三嶋大社 (キンモクセイ・ケヤキ・モッコク・カヤ・クスノキ・ムクノキ) ~ 山中新田 (山中城のスギ、駒形諏訪神社のカシ、宗閑寺のイチイガシ) ~ 伊豆佐野 (見目神社のイタジイ・コガノキ)

見学した指定文化財 (天然記念物)

- 三嶋大社のキンモクセイ (国)
- 駒形諏訪神社の大カシ (県)

10月22日(木)

「砦跡、古寺社、古墳を訪ねて」

講師・小林弘邦氏 (錦田郷土史研究会)

コースと史跡

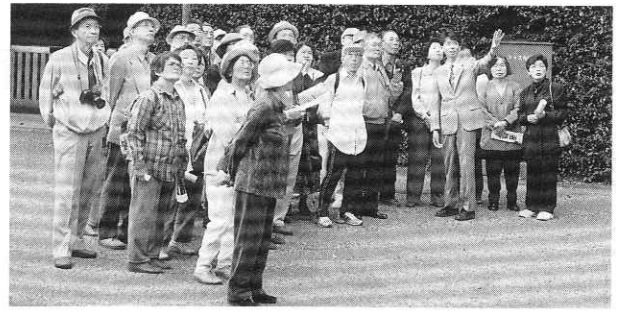
泉町・国分寺 (伊豆国分寺跡・井出志摩守の墓) ~ 大社町・祐泉寺 (代用国分尼寺跡礎石) ~ 谷田城の内 (谷田堡址) ~ 向山 (向山古墳群) ~ 東大場 (旭家塾筆子塚) ~ 川原ヶ谷・宝鏡院 (足利義詮・政知の墓) ~ 日の出町 (無縁法界地藏尊) ~ 加茂川町 (川原ヶ谷堡址) ~ 徳倉 (徳倉堡址)

見学した文化財 (史跡、考古)

- 伊豆国分寺塔跡 (国)
- 市ヶ原廃寺の塔心礎 (市)



伊豆国分寺跡で



三嶋大社で



向山古墳群十三号墳前

11月4日(水)

「三島の名刹めぐり」

講師・迫田信行氏(文化財保護審議委員)

コース

徳倉・歎喜寺(伊豆長八鋳細工・高遠石工の墓・庚申堂)～沢地・龍澤寺(武川倍安建立碑・開山堂の伊豆長八作星定禅師像・不動堂)～玉沢・妙法華寺(庫裡・本堂・お万の方関係品・宝物殿)

10月29日(木)

「伊豆一宮三嶋大社とその周辺」

講師・奥村徹也氏(三嶋大社宝物館学芸員)

コースと史跡

三嶋大社(宝物館・拝殿・境内)～妙行寺(福井雪水の墓・元小松宮別邸門)～光安寺(板碑・本尊鼻取地藏尊)～大宮町河合家(三島暦師屋敷)

見学した文化財(建造物、工芸)

- ・三嶋大社の本殿・拝殿・舞殿・神門(市)
- ・光安寺の板碑(市)・地藏菩薩座像

見学した文化財(工芸、絵画、建造物)

- ・妙法華寺の日蓮上人像(国)
- ・妙法華寺の絵曼陀羅(国)
- ・妙法華寺の金剛力士像(市)
- ・妙法華寺の庫裡(市)
- ・妙法華寺の鐘楼
- ・龍澤寺の入江長八鋳細工(市)



龍澤寺開山堂前



三嶋大社拝殿前



妙法華寺太田家の墓前

平成9年度 三島市郷土資料館事業報告

郷土資料館では、常設展示以外に企画展を開催し、市民各層を対象とした講座を開催しました。主要なものは次の通りです。

区分	事業名	内容	実施日	入館者及び 参加者	講師・備考
常設 展 示	ふるさとの自然と民俗 (2階)	三島暦、三四呂人形、農具、下駄作り道具、農家・商家の復元家屋など	年 間		
	三島の歴史 (3階)	旧石器時代から江戸時代までの三島の歴史を展示			
企 画 展 示	企画展 「農兵節と平井源太郎」	三島を代表する民謡「農兵節」のルーツを探り、これを広めた平井源太郎の業績を紹介	3月16日 ～ 5月11日	13,949人	パンフレット作成
	企画展 「 <small>よこど</small> 横道巡礼」 一駿豆霊場めぐりを 中心に	江戸時代の庶民の信仰心の現れの一つとして巡礼の旅がある。その1つ駿豆両国横道を紹介	7月20日 ～ 8月31日	10,174人	パンフレット作成
	企画展 「目・腹いっぱい 東海道」	県東部を代表する宿場（三島・沼津・原・吉原）の町並とその変遷や、各宿場の特徴を紹介	9月14日 ～ 11月9日	18,091人	三島沼津富士3市博物館共同企画 パンフレット作成
	企画展 「きたうえ村」	昭和9年に三島町と合併した旧北上村の歩みとその変貌を紹介	平成10年 3月21日 ～ 5月10日	15,699人	図録作成
教 育 普 及 活 動	縄文土器作り (3回)	縄文土器作りを通して古代の生活に対する理解を深める体験教室	7月23日 25日 8月21日	小学生 32人	館職員
	郷土教室	三島の歴史にふれてみよう	6月14日	小学生 19人	辻 真澄氏
		竹細工作り	7月12日	〃 20人	瀬川 到氏
		北上村の歴史にふれてみよう	10月11日	〃 5人	津高重作氏
		古代の生活を体験	11月8日	〃 24人	池谷初恵氏
	正月用のリースを作ろう	12月13日	〃 20人	大場由香氏	

区分	事業名	内容	実施日	入館者及び 参加者	講師・備考
教 育	ふるさと講座 「東海道の宿場を歩く」	吉原宿を歩く	12月18日	36人	杉沢文雄氏
		沼津宿・原宿を歩く	1月22日	33人	瀬川裕一郎氏
		三島宿を歩く	1月30日	29人	辻 眞澄氏
普	郷土資料館講座 「企画展関連講演会」	「東海道を歩く」 (会場 生涯学習センター)	10月25日	51人	小杉 達氏
及	夏の郷土学習体験講座	箱根の石畳を歩くツアー (親子参加)	8月8日	8人	館職員
出 版 活 動	『郷土資料館だより』の 発行	郷土資料館広報及び調査報告 ほか	年3回	各1500部	無料配布
	企画展関連出版	『農兵節と平井源太郎』パンフレット		発行2000部	無料配布
		『横道巡礼』パンフレット		” 2000部	無料配布
		『目腹いっぱい 東海道』パンフレット		” 2000部	無料配布
樋口本陣資料集	『きたうえ村』図録		” 500部	有料(1,000円)	
		『三百石以上 御旗本方御先代并御高御屋敷之記(二)』 (文政七年)		” 300部	有料(1,400円)

その他の事業

- ・郷土資料館正面階段改修工事（工期 10月24日～2月27日）
- ・ふるさとの人物説明版設置（福井雪水・世古六太夫）
- ・樋口本陣模型（縮尺1/100）
- ・三四呂人形修復（3作品）
- ・樋口文書他修復（16点）

東海道 三島宿へようこそ 電飾解説板設置「見聞録 “江戸時代の三島宿”」

玄関ホールに新しいコーナーが登場しました。電飾解説板「見聞録 江戸時代の三島宿」です。東海道五十三次の1つとして、江戸時代たいへん栄えた三島宿の様子を、見る・聞く・読むことで理解いただくようご案内いたします。

正面の図は江戸時代の三島宿。三嶋明神(三嶋大社)を中心に東海道の両側に多くの旅籠(旅館)が並んでいたことがわかります。モニター画面のタッチパネルを選択することにより、三島の歴史・三島宿・水と三島宿・三島宿の名所旧跡・三島宿の民話等を紹介します。こ

れらの解説をプリントして持ち帰ることもできます。1度お試し下さい。



お知らせ

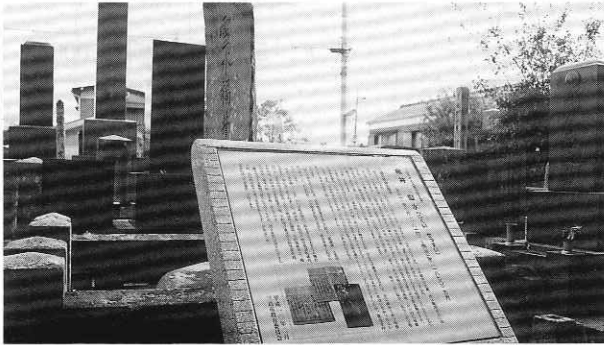
郷土にゆかりのある人物の紹介
「人物説明板」設置

郷土資料館ではふるさと三島に貢献した人物を皆様に知っていただくため「人物説明板」を建てて紹介しています。今年は2基増設しましたのでご紹介します。

福井 雪水 (1814~1870)

三島の教育先駆者

三島宿(長谷)に生れ、雪水は号、本名は時雍、通称耕作。江戸に出て、山本北山・朝川善庵の門に入り、学問を磨いた。25才で三島に帰り、漢学塾「千之塾」を開く。



▲福井雪水碑(日の出町 妙行寺)

世古 六太夫 (1838~1915)

三島を危機から救った最後の本陣主

川原ヶ谷村に生れ、14才の時三島宿本陣世古家に入った。明治元年、幕府を脱した200余名と官軍が三島宿を挟み一触即発の危機に、三嶋明神神主矢田部式部らと必死の調停で事無きを得ることができた。



▲世古六太夫碑(芝本町 長円寺)

●刊行物のお知らせ●

『三百石以上

御旗本方御先代并御高御屋敷之記(二)』

(文政7年)

樋口本陣史料集の解説版の続編を発刊し、全2編で解説完了しました。(90ページ)

1部 1,400円



『きたうえ村』(企画展図録)

きたうえ村の成り立ちを調査した図録。現在の北上地域の歴史・民俗・文化財をまとめました。(47ページ)

1部 1,000円



— 利用案内 —

休館日 毎週月曜(祝日の時は翌日)

12月27日~1月2日

開館時間 午前9時~午後4時30分(3月31日まで)

入館無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)

三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより No.61

平成10年(1998)12月25日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

住所 〒411-0036

三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 0559-71-8228

FAX 0559-81-3730

発行 三島市教育委員会